昨日の、生い立ちから……

新津市が市制を施行してから二十五年――二十五年といえば、その当時生まれた人たちが、今ではもう、立派な社会人です。長いようで短かかった二十五年間。では、市制施行以前は、どんな〝まち〟だったのでしょうか。ざっと一万年前から現代までをかけ足でのぞいてみると……。

着物にスゲ笠、道路は人の通る道、大正10年ころの本町通り

石器から土器へ…

新津市には、今から一万年くらい前から、原始的な石器を使って、狩猟や漁をして生活する人びとが、小さな集団を作って住んでいました。そして、約七、八千年前ころになると、土器を作る技術をもった縄文式文化の時代がおとずれます。このことは、程島東島・古津・小口などの丘陵地から、石斧・石鏃などの石器類とともに、縄文式土器が発見されたことによってわかります。

また、千五百年くらい前から盛んに作られた祝部式の土器片が、市内のほとんど全域から発見され、山先・滝谷付近には、同時代のものと思われる窯跡群が確認されたこともあり、秋葉丘陵一帯に、先住民族の大集落があったことも想像されます。

〝新津〟の起源、八百年前

新津の地名について一般には、「津」は港であり、船着場であることから、そこに起源をもつものと信じられています。特にここには、近くに古津があり、その古津に対する新津と受け取られています。つまり、以前、古津は単に津といって有力な船着場であったのが、河桑の変化で次第に新津の方に移り、やがて昔の津を古津、新興の港を新津と呼ぶようになった、と理解するのが自然のようです。その時期は、大体八百年くらい前の鎌倉初期と考えられます。

こうして港湾部落として成立した新津は、まもなく、十六代三百六十年にわたる源姓新津氏の城下町として栄えました。この新津氏は、金津にいた金津氏の分れで、天福元年（一二三三）ころ山谷に居館を構え、新津城と称した越前守信資を初代としています。

新津氏は、中間の数代新津をはなれていましたが、十二代ころから再び新津に居住して上杉氏に属し、ことに十五代丹波守勝資は武勇の誉高く、また民政にも力を注いで領民に親しまれ、新津氏といえばこの勝資のことと思われました。慶長三年（一五九八）、十六代秀祐のとき、上杉景勝に従って会津に移り、新津を去りました。

点から面へ進む開拓

新津氏が会津へ移ると、ついでここを治めたのは、新発田藩溝口氏です。新発田藩は領内を組ぐみに分け、組には庄屋を、村には名主を置き、これら村役人を通じて領内を統治しました。このころ、新津市は、新津組と小須戸組に分けられていました。また新発田藩は、代だい重農主義に基づく治水開墾に努め、新津近郷でも新しい村が数多く誕生しました。とくに、荻川地区や阿賀野川沿岸の新田・興野の村むらは、大部分この時代に成立しました。

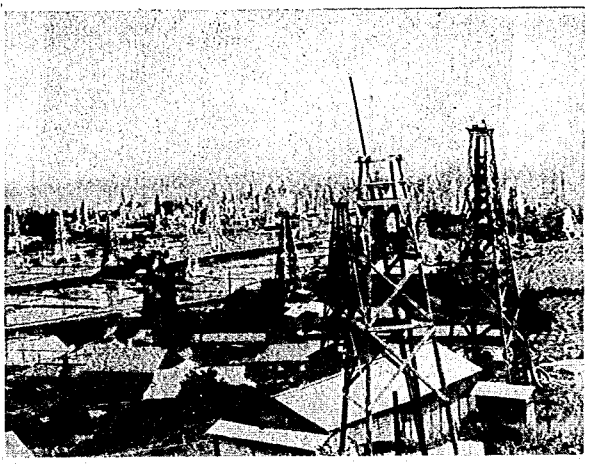
こうして新津は、近郷農村の発展につれて商工業の中心となり、明暦元年（一六五五）新発田藩は町割を実施しました。やがて定期市が開設されるようになると、新津は名実ともに、在郷商業町の基礎が固まりました。また、これより以前、すでに石油が発見されて、少量ながら年ねんの産額もあり、幕末になると幸清水が発見されて町民の生活をうるおし、著名な国学者がたびたび訪れて学問の灯をともすなど、経済・文化・産業の発展向上するなかで、明治維新を迎えました。

お買物、ご用命は市内で

カメラ フジカラープリント SONY ICラジオ・テレビ テープコーダー 特約店 リコピー 事務機・感光紙 各社電子計算機
最新型カメラ
交換レンズ
附属品なんでも
3－20ヶ月払で
株式会社 諸橋カメラ店
本店 新津市駅前 TEL (2) 0659・4718
支店 新津市駅前通り TEL (4) 0212

謹賀新年
内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6-12 TEL(2)1731

新津の町



産油量は爆発的に増大、石油黄金時代の新津油田地

中東蒲原の中枢地

明治時代になると、新津は中蒲原郡役所の所在地となり、かっては優位にあった白根、小須戸の両町をしのいで、郡の政治的、文化的中心となりました。また中東二郡といい、地勢上から自然と東蒲原郡をも統括する形となり、大正十二年に、五十年にわたる郡役所の廃止後も、二郡を管轄する行政・経済・文化の諸機関が集中し、郡の中心的地位はゆるがぬものとなりました。このことは、当時の石油業の飛躍的な発展が大きく関連し、以後の町制施行、鉄道開通にも大きな要因となりました。こうして新津は、郡の中心であるばかりでなく、やがて石油の町、鉄道の町として、全国に知られました。

石油の町から鉄道の町へ

全盛当時、海外にまで知られた「新津油田」のおこりは、慶長十三年（一六〇八）、柄目木真柄氏の先祖の発見にはじまるといわれ、長い歴史があります。しかし、明治までは手掘りによる採油で、生産量はわずかなものでした。それが明治二十五年ころ、上総掘りの掘さく法が導入され、ついで機械掘りの普及によって、産油量は爆発的に増大しました。

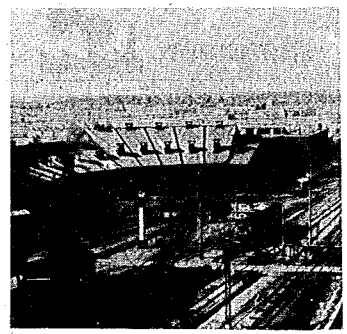
このため、新津付近一帯はいたる所に石油ヤグラが林立し、製油所は軒を連ねて町は活気にあふれ、空前の石油黄金時代を迎えました。中でも金津の中野貫一氏は、石油長者といわれるほどの巨富をきずきました。

しかし全盛をきわめた新津油田も、明治四十一年を頂点として産油量は次第に減少し、石油ブームは歴史のかなたへ去りました。

石油の町として栄えた新津は、今度は鉄道の町としてよみがえりました。

明治三十年、まず北越鉄道新津駅が開業し、同時に県下最初の駅弁も売り出されました。鉄道時代の幕あけです。北越鉄道は、同四十年に国有信越線となり、ついで磐越、羽越の両線が全通して、新津駅は、地方では有数の一等駅となりました。そして昭和十六年、鉄道車両工場（後の国鉄新津工場）が設置されて、鉄道都市新津は確立しました。

その後、時代の推移により鉄道施設は、漸次新潟方面へ移りましたが、いまも新津は、鉄道の町であることにかわりありません。



全盛時は56両の機関車もかかえた新津機関庫

新津市の誕生

新津が郡の中心都市として将来の発展を期し、隣接の田家・古田・西金沢・柄目木・飯柳などを合わせて「新津町」として発足したのは、明治二十二年四月一日です。人口七千余のささやかな誕生でした。

明治三十四年三興野村を、大正十四年阿賀浦・満日両村をそれぞれ合併し、ついで昭和十四年には荻川村を合併して、農・商・勤労者からなる理想都市建設の基礎を固め、昭和二十六年一月一日、人口三万七千余の「新津市」が誕生しました。県下で七番目の市制でした。

そして昭和三十年に小合・金津両村を、三十二年には新関村の大部分を合併して現在の新津市は形成されました。

市制施行後は、多くの都市機能を整備しながら、人口六万に近い中堅都市に成長しました。今年、市制施行二十五周年を迎えた新津市は、明るく豊かなまちへと、力強く発展しています。

お買物、ご用命は市内で

都市ガス使用にはぜひ！これだけは守りましょう
• ゴム管はいつも良質なゴム管にしておきましょう
• ゴム管はガス栓までしっかり差し込みゴムバンドで止めるようにしましょう
• お部屋でガス器具をお使いになるときは、時々換気をやりましょう
• ガスもれにお気づきになったら
・ガスせん（元コック）を閉じ、窓や戸を開け放して下さい
・すぐにガス会社に電話して下さい
・火気は絶対に使わず、電気のスイッチ類にも手をふれないで下さい
越後天然ガス(株) TEL 4 2171

謹賀新年
本年も皆様の防災をお祈り申し上げます
総合防災センター
株式会社 小林防災
新町2丁目 TEL 2－1607（代表）